

地中熱ヒートポンプで

快適な生活を提案

株式会社日伸テクノ

株日伸テクノはボーリングなどの土木工

事が主力の建設業を営んでいます。地中熱ヒートポンプには一九九二年から取り組んでおり、きっかけとなったのは、本業のボーリングに関しスウェーデンへ視察を行った際に地中熱ヒートポンプの存在を知ったことによる

地中熱は外気の影響を受けず、年間を通して約十一～十四度程度の温度を保つて

おり、地表から十㍍以上の深さを掘ればどこでも利用が可能なエネルギーである。この熱を家中に移動させる役割がヒートポンプであり、主に部屋の冷暖房に使用する。

地中に戻すところに
と柴田社長は語る。

トアイランド現象の

同社ではこれまでに住宅・事務所や学校などを含めて約七十カ所に地中熱ヒートポンプの設置工事を手がけてきました。

住宅の一部リフォームでも設置が可能だという。

柴田社長は「意外と設置は簡

新日進テクノが地中熱ヒートポンプ設置を手がけた北海道計器工業㈱



地中熱ヒートポンプ本体



株日伸テクノ(左)柴田和夫社長と(右)地中熱ヒートポンプ担当の広松謙長

道の幅もこれから広がっていくと思います」と話す。

風力などから水素を生成し、貯蔵供給システムを開発

株式会社フレイン・エナジー

株フレイン・エナジーは二〇〇二年に設立され、水素エネルギーの製造、貯蔵装置および供給方法の開発・販売を行っている。

この水素を作るシステムの特徴は、家庭から出る生ゴミなどの有機廃棄物や風力、太陽光などの再生可能な自然エネルギーから水素を生成するためCO₂を含まないところにある。その効果を多くの人々に伝えるため、さとらんどうや札幌市青少年科学館で水素供給装置を設置し公開実験を行つことがある。

現在は、家や施設などに設置可能な水素貯蔵装置のほか、水素を車の燃料として使用できるような仕組みを開発中である。

「水素は運んでいる間、時間とともに蒸発してしまう性質があり「運び方」が課題でした。そこで考えたのが、水素を「有機ハイドライド」に変えて安全な液体として運ぶ方法です。この方法だと水素が減少すること無く運べます。ヨーロッパでも水素エネルギーは認知されていますが効率的な貯